

要 望 書

八代圏域における産科医師の確保・育成等について

令和7年7月
八 代 市 ・ 氷 川 町

八代圏域における産科医師の確保・育成等について

熊本大学におかれましては、日頃より八代圏域の保健・医療行政の推進にご尽力いただくとともに、住民の健康と安全・安心な医療の提供に寄与いただいております。心より感謝申し上げます。

周産期医療に関しては、住民が慣れ親しんだ地域で、安全かつ安心して、妊娠・出産ができる環境整備が不可欠であり、その基盤となる周産期医療提供体制が将来にわたって安定的に維持されることは重要であると考えております。

令和7年2月に開催されました熊本県周産期医療協議会において、地域周産期中核病院の見直しが行われ、八代圏域では、熊本総合病院が地域産科中核病院、熊本労災病院が地域新生児中核病院の役割を担う医療機関と位置付けられたところです。

地元自治体としましては、地域周産期医療の中核を担う医療機関がお互いに連携・協力し合う体制の一層の強化が、妊産婦及び新生児の状況に応じた適切かつ迅速な医療提供をより強固なものとし、八代圏域全体の周産期医療提供体制の質と安全性を高めるために不可欠なものと考えております。

八代圏域における周産期医療提供体制の維持とともに地域周産期中核病院の機能がより効果的に発揮できますよう、熊本大学におかれましては、産科医師の確保・育成並びに体制のさらなる強化に特段のご高配賜りますようお願い申し上げます。

令和7年7月14日

八代市長

氷川町長

中村博生

藤本一風

